



校友会会報

第17号

2011年1月1日
編集・発行
酪農学園大学同窓会
校友会会報編集委員会
〒069-8501 江別市文京台緑町582
同窓生会館内
☎ (011) 386-1196
FAX (011) 386-5987
HP: <http://dousoukaikouyukai.web.infoseek.co.jp>
E-mail: rg-kouyu@rakuno.ac.jp



酪農学部の動向 —改革の真っ只中—

酪農学部長 干場 信司

今、本学は改革の真っ只中にあります。

新教育体制では、現在の酪農学部の4学科が2つの学類となります。すなわち、現在の酪農学科(大学・短大)と農業経済学科が中心となって、「循環農学類」となります。「循環農学類」には、カリキュラム(履修すべき科目)の違いにより、酪農学コース・畜産学コース・農学コース・農業経済学コースの4つのコースが設けられます。また、現在の食品科学科と食品流通学科が中心となって、「食と健康学類」となり、「循環農学類」と同様に、カリキュラムの違いにより、食品機能科学コース・食品開発学コース・食品流通学コース・管理栄養士コースが設けられます。

この「循環農学類」と「食と健康学類」の2学類に、現在の環境システム学部が中心になって作られる「環境共生学類」を合わせた3学類で「農食環境学群」を構成します。ちなみに、現在の獣医学部は、「獣医学類」と「獣医保健看護学類」の2学類で構成する「獣医学群」となります。大学全体では、2学群・5学類の体制となります。当然ながら、現在の在校生には、これまで通りの3学部+短期大学部の体制で教育運営がなされます。

「循環農学類」では現在の酪農学科と農業経済学科が一緒になることにより、また、「食と健康学類」では現在の食品科学科と食品流通学科が一緒になることにより、自然科学—社会

科学の枠組みを越えて、本学の大切な役割である、現場に貢献できる体制ができあがります。他の大学では見ることのできない、分野を越えた横のつながりを基本とした、実学を行う体制が可能となります。もちろん、専門分野がなくなるわけではありません。分野を越えた協力をするためには、自分の立ち位置である専門分野を明確にしなくてはならないからです。

また、現在の酪農学部は現在の環境システム学部と合体して、「環境共生学類」・「循環農学類」・「食と健康学類」からなる「農食環境学群」が作られるわけですが、これはまさしく「健土健民」を担う体制となります。なぜなら、言うまでもなく、「健土健民」は健康な「土—草—牛—食—人」のつながりを意味しており、「農食環境学群」はそれに対応できる組織だからです。

文頭で、「改革の真っ只中」と申しましたが、現在の状況は、来年の4月に新1年生を迎えるべくその準備に慌しく、また、校名変更問題等の余韻も抜けぬ中、「混乱の真っ只中」とも言えます。しかし、今こそが、真に本学の理念に立ち返り、本学の役割を果たすことができるように再出発する「チャンス」であると信じています。

同窓生の皆様の叱咤・激励を是非とも賜りますようお願いいたします。



各学科および同窓会の一年

酪農学科 「活動報告」

酪農学科同窓会事務局長 小阪 進一

2010年度より事務局長を務めます小阪です、よろしくお願ひします。今年度の活動概要を述べます。まず、3月10日には学位授与式が行なわれ、第47回卒業生168名に対し学位記ホルダーと卒業記念集合写真を贈呈しました。次に、9月18日のホームカミングデーに併せて合同同期会の懇親会が開催されました。毎年、酪農・農業経済学科卒業後10、20、30周年、食品科学科卒業後10周年、食品流通学科卒業後10周年の皆さまに案内していますが、今年は44、45周年、短期大学3、9、13、25期の卒業生の方々および教職員(旧職員含む)の総勢94名と非常に多くの参加がありました。30歳代~70歳代の皆様から、学生時代の熱き思い出や現況が語られ、また学園に対する要望など、短時間ですが学部・学科を越えた大変有意義な交流がもたれました。今後ともこの機会を利用していただければ幸いです。それでは、来年もお待ちしています。



食品科学科 「活動報告」

食品科学科同窓会事務局長 岩崎 智仁

食品科学科同窓会は、今年度も同窓生の住所録管理を中心に活動を行いました。今年度の卒業生に対して、卒業記念パーティー開催への補助ならびに学位記のホルダーの贈呈を行いました。

2010年5月29日には、菊地政則教授の退職記念祝賀会が開催され、わずかではありますが後援をさせていただきました。

現在、大学では教育システムの改組が急ピッチで進められ、それに合わせて同窓会の機構を組み直す必要が生じています。食品科学科同窓会理事会では、その準備のために、同窓会名簿の更新を決議しました。近日中に現住所確認の封書が同窓生の皆様のお手もとに届くことと思いますが、ご協力の程よろしくお願ひ致します。食品科学科同窓会の活動は、同窓生の皆様のご協力によって支えられています。今後も、指導とご理解をお願い致します。



菊地雅則教授の退官記念祝賀会の様子

農業経済学科 「活動報告」

農業経済学科同窓会事務局長 加藤 浩

農業経済学科同窓会は今年会長が澤田憲宏氏から大澤宏一氏へバトンタッチしました。(大澤氏の就任挨拶文はホームページに掲載中)また事務局長も佐々秀和氏から交代しました。活動内容は例年同様、1. 卒業生への学位記ホルダーと記念品贈呈 2. 卒業記念祝賀会の開催 3. 第22回現地研究会の開催(初めて道外(青森市)で開催予定。)4. 個人主催の同窓会への補助 5. 学科主催球技大会への協賛 6. 農経同窓会ホームページの管理などです。

特に今年は10月に開催された昭和46年卒業生の同窓会において微力ながらお手伝いをさせていただきました。これは手前味噌になりますが農経同窓会のホームページがゆっくりとOB皆様に浸透してきている成果かなと思います。



2011年度からの大学組織の変革に伴い、同窓会組織も大きく変わる予定です。OBの皆様、今後とも同窓会をよろしくお願ひします。農経同窓会のホームページに是非アクセスしてみてください。

食品流通学科 「同窓会活動報告」

食品流通学科同窓会事務局長 西田 智

食品流通学科同窓会の2009年度の活動としましては、2010年3月に卒業生(第13期生)への卒業パーティー支援という形でお手伝いさせていただきました。

内容としましては毎年のごとではありますが、卒業生への記念品としてペーパーウェイトと学位記フォルダーを贈呈し、3月10日に札幌のセンチュリーロイヤルホテルでおこなわれた卒業パーティーにて、学生の会費の補助やビンゴゲームでの景品の補助をおこないました。

ちなみに1994年に食品流通学科の第1期生が入学して、2010年度で第17期生の入学生を迎えることになり、卒業した同窓生も1,000名を越すまでになりました。

今後も食品流通学科の同窓会活動に、ご理解・ご協力頂きますようお願い申し上げます。



■獣医学科 「三愛創刊40周年」

獣医学科同窓会事務局長 菊池 直哉

今年度の最も大きな事件は宮崎県での口蹄疫の大流行でした。4月20日に初めて発生が確認され、8月までの4ヶ月以上にわたる防疫措置によりようやく終息宣言が出されました。その間犠牲になった家畜は29万頭以上に上りました。酪農学園大学の獣医学科からも永幡肇教授(13期卒)、植田弘美准教授(19期卒)、鈴木一由准教授が派遣され、現地防疫従事者として派遣されました。

このような中、第8回獣医学科同窓会代議員会が、5月22日(土)に開催されました。59名の代議員中19名が出席、14名より委任状を頂きました。酪農学園大学には全国に誇る附属農場がありますので、学内においては口蹄疫ウイルスの侵入に大変敏感になっていた時期でもあります。代議員会には学外から多数の畜産関係者を含む同窓生が集まりますので、防疫対策上、急遽学内から学外に会場を変更いたしました。その中で、代議員会では活発な討論がなされ、重要な議題が審議されました。最後に大分県の代議員から宮崎県の状況について詳細に報告され、時間が過ぎるのを忘れ、参加した同窓生一同心打たれる思いで聞き入っていました。

すでにお手元に届いているかと思いますが、今年度は三愛創刊40周年記念号が発刊されました。「継続は力なり」。獣医同窓会を立ち上げ、雑誌「三愛」発刊にご尽力いただいた獣医学科創成期の同窓生の皆様に敬意を表します。例年に比較し豊富な内容となっておりますので、隅から隅までお読み下さい。

最後になりましたが、宮崎県畜産の復興を心から祈念申し上げます。



「三愛」周年記念号
下段左より創刊号、10周年記念号
上段より20周年、30周年記念号

■生命環境学科 「卒業した今 思う事」

生命環境学科1期生 澄川 大輔

早いもので、私が酪農学園大学、生命環境学科を卒業してから2年の月日が流れました。今でも大学時代の友人に会う機会があると、当時のことを強く思い出します。先生方から教えていただいた様々な事柄、友人たちとの交流等、大学時代の4年間は今の自分を形作る上で大切な一部となっています。学生時代に学んだ、大きな枠組みを様々な方向から観察し、とらえるという考え方は、社会人となった今、とても役に立っています。2期生も卒業され、この学科で学んだことが社会により大きく広がっていくと感じ、とても喜ばしく思っています。私たちの学科はまだ卒業生が少なく、酪農学園大学も新しい時代に向けての過渡期であると思いますが、先生方や同窓生、後輩の皆さんとのつながりを大切にしていけたらと考えています。最後になりましたが、母校の益々のご発展と、皆さまのご健康とご活躍を心からお祈り申し上げます。



■経営環境学科・環境マネジメント学科 「2年生の学外研修～「菊水」訪問」

環境マネジメント学科教授 松本 懿

いま、2年生後期に「専門基礎演習」(水曜日・1講目)という科目があります。基本は学科教員による各ゼミ紹介。期間中、2回は学外へ出て視察や交流を行います。

第1回目の2010年10月27日は、初雪が降り寒い朝でした。しかし、定刻の9時にはほぼ全員が集集、「株式会社菊水」へ向けてバスは出発しました。



菊水は、麺類メーカーとして売上高77億円、従業員530名を擁する、江別でも最大規模の会社です。杉野邦彦常務の説明は、同社の沿革、経営的特徴と戦略展開、環境問題への取組とその成果など、詳細・明快でした。スーツを着用、90分間、一心に耳を傾ける学生たちの姿が印象的でした。



同行した高取先生と、帰りのバスの中で、外部研修の意義や有効性を話し合っているうちに、11時過ぎ、予定通り大学に着きました。本学科では、これまでと同様、地域企業と連携・協力した教育活動を積極的に展開していくつもりです。

■地域環境学科 「地域環境学科の今後」

地域環境学科長 岩井 洋

地域環境学科は1998年の開設以来、環境保全型地域社会の実現を目指す教育を行ってきました。共生と循環をキーに自然との共生度の高い健康で健全な地域づくりを、環境の保全・再生・創造の手法を学ぶことを通し実現しようとするものでした。

しかし来年度から始まる改組に際し、今回、学科として大きな方向転換を図ることになりました。この13年間にわたる教育活動や学生の意識や期待を踏まえ、現在の教育目標の実現を、自然環境教育を中心軸とする環境教育の一層の充実を通して図ろうとするものです。つまり豊かな自然が保護・保全される環境保全型地域社会に向けた社会制度の整備・充実という社会科学の観点、環境との調和共生の実現を啓発する人間教育という人文科学的観点という、二つの観点からの環境教育の充実化です。そのため、現生命環境学科の自然科学系教育と一体化して進もうと決意した次第です。大きな方向転換のため、その新しい教育理念が改組案でしっかり実現されているとはいえないのですが、今後の努力と相互理解の中で、実現できると期待する次第です。



2010年度ホームカミングデー並びに同期会開催

短大60周年、大学50周年の周年事業の翌日、9月18日(土)13時より、教職員、卒業生、ご家族、一般市民を含めて、約220名の方々にご出席いただき、第19回を数えるホームカミングデーが黒澤記念講堂を会場に行われた。



記念礼拝は、高橋宗教主任の司式により執り行われ、今年のお物故者27名の追悼礼拝が行われた。記念講演は、麻田理事長のご挨拶で開会。

今年は旭山動物園園長の坂東元氏から「伝えるのはいのちの輝き」と題しての講演をいただいた。

坂東氏は1986年本学獣医学研究科修士課程をご卒業後、旭山動物園に勤務。2004年副園長、2009年より園長として活躍している。先頃、ボルネオ出張から帰国したばかりで、

バイオエタノールの原料となる「パーマヤシ」の栽培とオランウータンの生息地である森林伐採との関係から「エコブームの矛盾等」にもふれた。



動物園の動物たちの様子

講演会終了後は、講堂2階の小ホールにおいて、講師を囲んで約50名の方々により茶話会が催され、和やかな雰囲気の中でのおの旧交を温める時を持つことが出来た。

この日の夕刻は、ホームカミングデーにあわせて、多くの同期会も開催された。



ご挨拶

校友会事務局長 浦川 利幸

風声雪語、野幌丘陵は今、モノトーンの世界です。

横殴りの北風を受けながら通学された先輩諸氏も多いと思いますが50年たっても原風景はあまり変わっておりません。大学は51年目の新春を迎えます。同窓生の皆様におかれましても、ご健勝で新年を迎えられていることと拝察いたします。

昨年は、大学50周年、短期大学部60周年の節目の年で、9月17日(金)には周年事業として記念式典、記念祝賀会が盛大に行われました。久々に母校に訪問した方もいらっしゃると思います。また多くのクラブ・サークルでも周年事業が行われ、OB、OGが母校を訪問しております。

昨年のホームカミングデーは別記のとおり、9月18日(土)に記念礼拝(物故者の追悼礼拝)、記念講演(大学獣医学部を卒業された旭山動物園 坂東元氏を講師)が開催されました。今年は9月17日(土)に開催予定です。どうぞ同窓生の皆様もご家族で母校にお立ち寄りいただければと思います。

ご承知のとおり、大学は、2011年4月より2学群5学類10コースに再編されます。大学同窓会校友会もこの改革に合わせて、今後の校友会組織をどのように再編するか、各学科同窓会を中心に協議を進めております。

事務局では、既存の8学科の学科同窓会と改革後の学群学類コースとなる同窓会組織をどう運営するか各学科同窓会の意見を集約中です。主な考え方として、学科同窓会組織全体を一本化する案。現行学科同窓会を中心に学類も独立して再編した案。現行学科を新学類に統合した案等々。。。

いずれにしても、50周年を節目として、大学同窓会校友会も大きな再編を行う必要があることは間違いありません。皆様から卒業年次にお納めいただいた同窓会費も現在学科同窓会で管理運用されています。その資産の取り扱いについても慎重に協議する必要があります。多くのOB、OGのご意見を拝聴しながら丁寧に取り進めていきたいと思っておりますのでご意見をお寄せいただければ幸いです。

2010年度酪農学園大学同窓会校友会理事・代議員会報告

5月21日(金)新さっぽろアーキシティホテルにて2010年度同窓会校友会理事・代議員会が開催された。(出席者21名、委任状39名)麻田理事長、谷山学長をお迎えして野村会長の挨拶後審議に入った。議長に野村会長を選出し、第1号議案：2009年度事業報告、収支決算、第2号議案：2010年度事業計画、予算、第3号議案：任期満了に伴う次期評議員候補者の推薦について慎重に審議の上承認された。その他として、理事・副会長の澤田憲宏氏(農業経済学科)の辞任により、副会長残任期間を大澤宏一理事(農業経済学科)にお願いすることとなった。

会計報告 2009年度決算及び2010年度予算について下記の通り了承された

収 入		(単位:円)	
項 目	2009年度決算	2010年度予算	備 考
前年度繰越金	10,340,717	10,176,041	
分担金	2,313,000	2,310,000	771名×3000円
利息	18,411	20,000	
助成金	10,000	10,000	
ホームカミングデー助成金	148,000	200,000	共催金
雑収入	42,000	40,000	
合計	12,872,128	12,756,041	
支 出			
項 目	2009年度決算	2010年度予算	備 考
会議費	127,256	100,000	理事・代議員会他
連合同窓会	640,200	640,200	負担金
在学生関係	100,000	100,000	白樺祭支援
会報関係	220,500	250,000	印刷代
ホームカミングデー費	185,457	250,000	校友会負担分 37,457円
シリーズ小冊子	0	100,000	
周年事業費	-	500,000	
コンピューター費	6,300	50,000	HP更新他
人件費	1,172,996	1,200,000	事務局長手当含
通信費	23,514	30,000	
旅費交通費	56,840	40,000	会計監査、会議時交通費
慶弔費	18,137	30,000	
事務用品費	86,810	50,000	コピー代、トナー代他
消耗品費	29,722	30,000	マットリース代他
雑費	28,355	30,000	振込手数料他
小計	2,696,087	3,400,200	
次年度繰越金	10,176,041	9,355,841	
合計	12,872,128	12,756,041	